

## ふるさと八百名山のこと

昨年、2007年の産経新聞元日号都内版で、「ガキ大将宣言」をした。その中で「1億2000万人総登山者化計画」をブチ上げた。とはいっても、一人でできることは小さい。計画は遅々として進まない。

山に登るのが大好きで、山に登ってばかりいる。山に登っている最中は他のことは考えられない。下ったら旨い寿司食いたいなんてことが、頭に浮かんだ次の瞬間、滑ってころんでいる。山に登ること以外に、脳味噌が働いてくれないから、計画も進展しないのだ。

いつこの山でだったろうか。大汗かいて尾根上に出たとき、さわやかな風が吹いた。あー気持ちがいい、生き返ったよと山に登ることの幸せを感じた次の瞬間、「ふるさと八百名山」というアイデアが頭の片隅に浮かび上がった。

山は人の身心の健康に寄与するものだ、というのは持論である。未病が問題になっている昨今だが、山は最良の未病治療薬ではあるまいか。「1億2000万人総登山者化計画」を考えた理由の一つもそこにある。

ぼくの話聞いて山に登ってみるかと思立った人が、次に直面するのが「どこの山に登ったらいいの」という問題であろう。その解決策が「ふるさと八百名山」である。

各都道府県から17山ずつ選んでみることにした。17山×47で799山、北海道だけは18山にして、計800山とする。山の多い県も少ない県も、人口の多い県も少ない県も選ぶ山の数は同じ。深田久弥さんの選んだ日本百名山と、ぼくの新日本百名山（深田百名山と重複しているので、実数は48山）は除くことにする。魅力度が同じだったら、登り易い山を選ぶ。

日本を元気にするためのマーケティングであって、純粹登山的な名山コンテストではないことはお断りしておきたい。ぼくが勝手連に呼びかけて、「ぼくが選ぶ日本全国ふるさと八百名山」なのである。

その八百名山を現在、募集中である。山名、魅力のポイント、所在地、お勧めコースなどをメモして、無名山塾事務局にFAX03(3941)3482して頂きたい。

とはいっても「ぼくの八百名山」である。他人任せにすることもできない。いま、机の上に分県登山ガイド（山と溪谷社刊）を47冊並べている。片っ端から目を通し、面白そうな山を選んでいく。

この作業が実に楽しい。へえ、こんな山があるんだ、なんて次々に新しい山が発見されるので、作業は遅々として進まない。一例を挙げれば、奈良県の鎧岳。山容がすばらしく魅力的だ。奈良県から選ぶ17山のうちの1山に決めた。こうなると一日も早く登りに行きたくなる。

そんな訳で作業が進まず、腹案として17山選定できたのは、まだ9県。といっても、他の県は17山が選び出せないでいるだけで、あの山もいい、この山もいいと、毎晩楽しい作業が夜更けまで続いている。